

「調理設備・器具などについての調査」よりみた器具の保有状況について
 お茶の水女大家政 O平野美那世 長野県短大 三田コト
 武蔵野女大短大 石川寛子

目的 近年、家庭における食生活は加工品や調理済食品などが利用され、個食化など従来とはかなり異なつた傾向がみられるため、調理設備・器具も変化していると考えられる。すなわち、各家庭で以前かうあつたものの中で使われなくなつたり、家電品その他開発販売された新製品では使いこなせないものも増加していることが予測される。本研究では、これら調理器具の実態について調査、検討した。

方法 調査は、アンケート用紙を留め置き方式とし、関東、関西その他の都市、埼玉新潟の農村などに依頼し、期間は昭和58年10月より12月におこなつた。調査項目には生活環境を知るため家族構成、炊事担当者、食事をする場所と回数、炊事用熱源や給湯設備の種類、炊事用水の形態、契約電流の大きさなどをあげた。器具項目では150種を選び家にあるものは○、最近使わないものは⊗、ないものは×、知らないものは△印の記入とした。

結果 配布調査紙総数1008のうち有効数は985であつた。調理器具150種のうち保有率90%以上はまな板など19品目、10%以下は電磁調理器など11品目であつた。また、90%以上がないと解答したものは食器洗い機、電気レンジ、電気なべであつた。⊗の多かつた器具を大別すると、①古いもので使われなくなつたうす、きね、羽釜、かつお節削り、しちりん、②目新らしさや便利そうに思えて買ったマヨナイガー、ジューサー、ミキサー、ミンチ、③安酒なため多くの人が持っているおにぎり型、卵切り器、絞り出し口金などであつた。また、知らない人の多かつたものは地域により差があるが、スロークッカー、火鍋子、コンビネーションレンジ、フードプロセッサー、羽釜などであつた。